

## 第 65 回ロードレース大会

本校のロードレースは、昭和 27 年度から開校記念(5 月 26 日)と銘打った宍道湖一周レース(約 55km)として始まったようです。目的は、「戦後柔弱化したと評されていた生徒を鍛え直すため」であり、他校(松江産業高校〔現在の松江工業高校と松江商業高校〕・松江高校〔現在の松江北高校と松江南高校])でも行われていたそうです。3 年間で 3 回宍道湖一周走るのですから大変です。昭和 42 年度からは、交通事情で熊野神社コースに短縮され(男子 27.6km、女子 18.2km)昭和 63 年度まで実施されました。そして、平成元年度には松江市運動公園を発着とする男子 20.8km、女子 18.4km のコースに変わり、平成 7 年度からは男女とも 18.4km の距離で行われてきたようです。現在は、男子が松江市営陸上競技場からかやぶき交流館往復の 14.8km、女子は競技場から草谷バス停往復の 12.6km で行われています。交通量が多い道路を避けるなど、交通事情等が重なって今のコースで行われるようになったそうです。

今年で 65 回を数える伝統あるレースなのですが、昭和 57 年度の「くにびき国体」のために中止となった年を除いて毎年実施されてきています。しかし、国体の開催により事前練習ができなかったという理由で中止となった 57 年度も「長距離歩行を行うことによって体力の増進を図る」という目的で、玉造史跡公園一周歩行遠足(13.4km)が行われています。簡単にはやめない、体力増進にける本校の姿勢が如実に表れた取組だと当時評価されたようです。

ロードレースについて『松江農林高等学校百年史』に次のように記載されており、今でも多くのことが伝統として引き継がれています。

レースの目的は、

- 一、生命の余裕力(持久力)を高める
- 一、自己の管理能力を高める
- 一、全距離を人生にみたく有終の美をなすべく努力する

ことにおかれている。練習はおおよそ二ヶ月前から体育の授業を利用して行われ、合計 30 時間の練習が課せられる。表彰は団体(参加率・完走率・得点率で計算)と個人の両方で行い、団体には賞状(3 位まで)、個人には賞状と盾(10 位まで)、バッジ(30 位まで)が贈られる。例年、9 割近くの生徒が参加し、9 割以上の完走率を記録している。健康状態等による不参加生徒は、競技役員として監察や救急活動に従事するようになっている。

今日は女子 238 名、男子 177 名、合計 415 名がスタートしました。走った生徒の割合は 94.7%、途中 2 人が体調不良で棄権しましたが、413 名は走りきりました。完走率は 99.5%、男女とも 1 位は 54 分 06 秒と奇跡的に同じタイムでした。けが等により走ることができなかった生徒たちは役員としてこの大会を運営しました。心配された雨も、生徒たちが辛抱しながら走っている姿を応援してか、最後まで辛抱してくれて終えることができました。男子の最後に入ってきた生徒を全員が大きな拍手で迎えていた姿が印象的でした。

競技場の入り口(ゴールまで約 200m)で帰ってくる生徒を迎えていると、ほとんどの生徒が辛そうです。「あと少し!頑張れ!!」と声をかけるのですが、最後に力を振り絞って頑張っていることもあり、返事はたいてい返ってきません。かろうじて返事ができても「へっへ〜!」と答えるのが精一杯のようです。しかし、ゴールした後は皆笑顔で、満足そうにしていました。『雪に耐えて梅花麗し』、そんな笑顔でした。

